

3、乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防及び睡眠中の事故防止

- 医学的な理由で医師からうつぶせ寝をすすめられている場合以外は、乳幼児の顔が見える仰向けに寝させることが重要です。
- 何よりも一人にしないことが大切です。
- 寝かせ方に配慮を行うこと、安全な睡眠環境を整えることは、窒息や誤飲、けがなどの事故を未然に防ぐことにつながります。

具体的には…

- ・ やわらかい布団やぬいぐるみ等を使用しない。
- ・ ヒモ、またはヒモ状のもの（例：よだれかけのヒモ、ふとんカバーの内側のヒモ、ベッドまわりのコード等）を置かない。
- ・ 口の中に異物がないか確認する。
- ・ ミルクや食べたもの等の嘔吐物がないか確認する。
- ・ 子どもの数、職員の数に合わせ、定期的に子どもの呼吸・体位、睡眠状態を点検すること等により、呼吸停止等の異常が発生した場合の早期発見、重大事故の予防のための工夫をする。

- ☐ 照明は、睡眠時の乳幼児の顔色が観察できるくらいの明るさを保つ
- ☐ 乳幼児のそばを離れない。機器の使用の有無にかかわらず、必ず職員がそばで見守る。
- ☐ 仰向け寝を徹底する（医師がうつぶせ寝を勧める場合を除く）
 - ・ 1歳児以上でも、乳幼児の家庭での生活や就寝時間、発達の状況など一人一人の状況を把握できるまでの間は、必ず仰向けに寝させる等、乳幼児の安全確認をきめ細かく行うようにしましょう。
- ☐ 午睡（睡眠）時チェックをきめ細やかに行い、記録する
 - ・ 必ず1人1人チェックし、その都度記録しましょう。
 - ・ 0歳児は5分に1回、1～2歳児は10分に1回が望ましい間隔です。
 - ・ 預けはじめの時期は特に注意してチェックしましょう。
 - ・ 体調不良等いつもと違う様子の際は特に注意してチェックしましょう。
 - ・ 人任せにしないよう、チェックする担当を明確にしましょう。
- ☐ 保育室内の禁煙を徹底する
- ☐ 厚着をさせすぎない、暖房を効かせすぎない
- ☐ 保護者と緊密なコミュニケーションを取る
 - ・ 預けはじめの時期や体調不良明けは特に注意して、家庭でのお子さんの様子、睡眠時の癖、体調等を保護者から聞き取るとともに、保育園でのお子さんの様子もきめ細やかに報告しましょう。気になることはお互いに話し合い、対策を講じましょう。